

1 趣旨

体験活動を通して、子ども食堂を利用している青少年の基本的な生活習慣や自立する力を育む。

2 期日

令和6年1月6日（土）～8日（月）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

32名（小学生22名、中学生10名）

5 主な活動内容

（1）五色沼スノーシューハイキング

研修指導員のもと、五色沼をスノーシューでハイキングした。参加者からは「みんなと助け合って、よい経験ができた。」「スノーシューが重くて疲れたけれど、動物の足跡が見られたりして楽しかった。」等の声が聞かれた。距離別コースを設定し、参加者が自主的に選択できるようにしたことで、参加者は各々のレベルに応じた達成感を味わうことができた。



（2）雪灯ろう作り・たき火・マシュマロ焼き

参加者は地形を生かしたり、道具を用いたりして、班ごとに思い思いの雪灯ろうを作ることができた。そこにろうそくを灯し、幻想的な雰囲気の中、たき火をしてマシュマロ焼きを実施した。参加者からは「雪をめったに見られないし、遊べないからとても楽しかった。」「たき火が暖かかった。」「灯ろうのろうそくに火がつくと、とてもきれいだった。」等の声が聞かれた。



（3）自主性を大切にした活動（雪遊び、体育館でのスポーツ等）

前日のミーティングで場所と道具、可能な活動の中から、各自がどのような活動をして過ごしたいか話し合い、参加者の自主性を大切にした活動を行った。参加者からは「楽しくて友達がたくさんできてうれしかった。」「ねこのかまくらを作って、とてもよくできてうれしかった。」「大人と子供に分かれて雪合戦をしたのが楽しかった。」等の感想が聞かれた。



6 事業の成果と課題

（1）成果

アンケートから「バスケットボールなど色々な活動を選んでできて楽しかった。」「千葉と福島の温度の差が大きく、こんな量の雪は見たことがないので、とてもドキドキした。」「初めての人と仲良くなり、協力していろんなことに挑戦できてよかった。」といった感想が見られた。これらから、共に活動する仲間を受け入れて尊重しようとする態度や、自分自身で活動を選択して実施することの心地よさ、失敗を恐れずに挑戦しようとする前向きな気持ちを味わうことができたと思われる。

（2）課題

- 参加者の特性等について連携機関と情報を共有しながら、適切な配慮のもと活動が展開できるようにしていく必要がある。
- ねらいを達成できたかどうか客観的に把握するために、事業前と事業後に、自己肯定感に関する項目、基本的な生活習慣に関する項目についてアンケートをとるなど工夫したい。